

実施期間	令和7年6月5日(木)～令和7年7月4日(金)
閲覧場所	＜電子媒体＞ ・県ホームページ ＜紙媒体＞ ・県河川課 ・県情報公開コーナー ・日高振興局建設部 ・御坊市産業建設部都市建設課 ・美浜町農林水産建設課 ・日高町産業建設課 ・日高川町建設課
周知方法	・報道発表(県ホームページ)
意見数	・5件

パブリックコメントの意見と回答

(下線部は本文修正内容)

	計画に関する意見の概要	回答案
1	西川上流域(池田川合流点より上流)における土砂・洪水氾濫や流木流出のリスクへの対策が必要と考えます。	西川上流域(池田川合流点より上流)における土砂・洪水氾濫や流木流出のリスクへの対策については、関係機関と連携して策定した「日高川流域治水プロジェクト」に基づき、砂防関係施設等の整備を鋭意進めているところです。
2	西川流域の下川、斉川、西川には、(土地)改良区が若野で取水した水が流れ込んでおり、用水路として使われているため、浸水対策を考えるうえで、用水として対策が必要と考えます。	若野頭首工から取水された日高川の水は、灌漑用水及び上水として利用され、その後、一部の取水された水は西川流域の下川、斉川、西川に流れ込みます。 なお、大雨の際は若野頭首工からは上水目的に必要な分のみを取水しており、西川流域の外から余分な雨水が流入しないよう運用していると聞いております。
3	現在頻繁に起こっている西川に流入する支川の氾濫を防ぐことを考えてほしい。 特に東裏川の排水ポンプは大雨・洪水時に稼働できないのか。また運用規定等についても教えてほしい。	西川に流入する支川の氾濫については、河川改修のみでは防ぐことができないことから、計画に記載の各流域対策について、西川流域水害対策協議会構成員で連携し、流域関係者の理解を得ながら順次進めていく予定です。 東裏川排水用ポンプについては、東裏川より西川の水位が高いときは、千貫樋門を閉めた上でポンプを稼働させることとしていますが、西川の水位が一定の値を超える場合には、西川合流箇所付近の浸水リスクを考慮しポンプを停止する運用規定となっております。現状では、大雨の際、東裏川と同様に西川の水位も上がっているため、ポンプを稼働させる機会が少なくなっています。 <u>今後は、西川本川における河道掘削などの進捗状況を踏まえ、より効果的な排水ポンプの稼働ができないか、必要に応じて運用規定の見直しを検討してまいります。</u>
4	ハード、ソフト両面を強化する西川流域水害対策計画(素案)に賛同します。 また、ソフト面としては、ハザードマップの理解促進支援や「マイタイムライン」などの住民一人一人の避難計画策定支援、保険による事前の備えの理解促進支援が重要と考えます。	今後の西川流域における流域治水の取組の参考にさせていただきます。
5	現在、小中閘門(樋門)の操作は農業関係者が現地で目視で行っているが、高齢化の問題や豪雨時には現地への移動が危険な場合があり、遠隔化が必要と考えます。	県では、水門や樋門の遠隔化・自動化について、大規模地震等が発生した際の閉鎖操作者の安全確保及び適切な運用を図ることを目的に、優先度の高いものについて順次実施しております。 西川流域では、日高川水系河川整備計画に基づき、地震・津波対策として津波の到達時間等を踏まえ、8つの水門・樋門について遠隔操作化を実施しました。 小中樋門については、同計画において遠隔化の予定はありませんが、洪水時における現地への移動や操作状況を踏まえ、遠隔化の優先度について検討してまいります。

住民説明会による意見聴取

御坊市

- ・開催日時: 令和7年7月 9日 14時～
- ・開催場所: 御坊商工会議所



美浜町

- ・開催日時: 令和7年7月10日 14時～
- ・開催場所: 美浜町地域福祉センター



住民説明会の意見と回答

(下線部は本文修正内容)

	計画に関する意見の概要	回答案
1	西川と東裏川との合流点に、設置している県の排水ポンプについて、内水対策として稼働できれば、浸水被害の軽減につながるのではないかと。	東裏川排水用ポンプについては、東裏川より西川の水位が高い時に千貫樋門を閉めた上でポンプを稼働させることとしていますが、西川の水位が一定の値を超える場合には、西川合流箇所付近の浸水リスクを考慮しポンプを停止する運用規定となっております。現状では、大雨の際、東裏川と同様に西川の水位も上がっているため、ポンプを稼働させる機会が少なくなっています。 今後は、西川本川における河道掘削などの進捗状況を踏まえ、より効果的な排水ポンプの稼働ができないか、必要に応じて運用規定の見直しを検討してまいります。
2	東裏川流域において、浸水被害が頻発しているため河川整備を早く進めてほしい。	東裏川流域における内水被害への対応については、今後策定する本計画に基づき、西川本川の河床を掘り下げること、東裏川の水位低下に寄与する河川整備を推進してまいります。 また、河川整備の完成には一定の時間を要することから、並行して田んぼダムやため池の低水位管理といった対策も含め、流域の様々な関係者との協働により浸水被害軽減に取り組んでまいります。
3	日高川町土生地内の未利用地に雨水貯留施設を作ること、下流域の浸水被害の軽減を図ることはできないか。	浸水被害の軽減に有効な手段と考えており、今後の西川流域における流域治水の取組の参考にさせていただきます。
4	西川の河川整備について、入山地区で河道拡幅を検討してほしい。	日高川水系河川整備計画では、西川の入山地区で河道拡幅を位置づけており、下流から順次整備を進めているところです。 また、河川整備の完成には一定の時間を要することから、並行して田んぼダムやため池の低水位管理といった対策も含め、流域の様々な関係者との協働により浸水被害軽減に取り組んでまいります。
5	和田川との合流点に美浜町が排水施設を整備するとのことだが、なぜ美浜町が整備するのか。	西川河川整備の状況等を踏まえると、美浜町が整備する方が早期完成が見込めること、計画に位置付けることで国や県の財政支援を得られることから、美浜町で整備することとしました。
6	計画の目標となる降雨量が、1/10規模(97mm/2h)としているが安全になるのか。	本計画では、日高川水系河川整備計画や県内河川の治水安全度のバランスを考慮して年超過確率1/10規模の降雨を目標としています。 しかしながら近年は気候変動の影響により、水災害が激甚化、頻発化していることから、計画対象降雨以外の想定し得るあらゆる洪水が発生することも可能な限り想定し、地形条件等により水位が上昇しやすい区間や氾濫した場合に特に被害が大きい区間等における氾濫の被害をできるだけ抑制する対策等を検討してまいります。

学識経験者への意見聴取

＜意見聴取する学識経験者＞

(敬称略)

分野	氏名	ご所属
河川工学	武藤 裕則	徳島大学理工学部長
河川工学	藤田 正治	京都大学名誉教授
都市計画	宮川 智子	奈良県立大学地域創造学部教授
農業水利	井賀 尚哉	和歌山県土地改良事業団体連合会常務理事

＜意見聴取する学識経験者の選定理由＞

○和歌山県河川整備審議会河川整備計画部会の委員の中から、河川工学、都市計画、農業水利に係る学識経験者を選定

解説・特定都市河川浸水被害対策法施行に関するガイドライン(抜粋)

流域水害対策計画に定める事項に土地の利用に関する事項があることや、農地・農業水利施設を活用した取組が多大な効果を発揮する場合が考えられることを踏まえ、まちづくりや農業水利等に係る学識経験者の意見を聴くことが望ましい。

学識経験者からの意見と回答

	計画に関する意見の概要	回答案
武藤 裕則 様 (河川工学)	・西川流域は、地形的にも浸水被害を受けやすい地域であり、流域治水の取組を実施する好適地である。 ・田んぼダムの取組について、圃場整備が完了した水田で実施することが望ましい。また選定地に関しては、地域住民の流域治水に関する機運が高まっており、浸水被害の軽減に効果的である地域を検討する必要がある。 ・防災教育について、例えば地域住民による子供たちへの防災教育等、地域コミュニティを巻き込んだ活動が有効である。	西川流域水害対策協議会構成員で連携し、農家や地域住民の方々に流域治水の取組に参加・協力いただけるように取り組んでまいります。
藤田 正治 様 (河川工学)	・整備計画の規模を超えるような想定外の降雨への対応について、地域住民の方々の理解を深めるような説明も必要と考える。 ・田んぼダムやため池の低水位管理等の流域対策について、いかに実行力を持たせたものにするかが重要。そのためには日頃から地域との関わりを持っておくことが円滑に進めるためには必要と考える。 ・民間等の取組に対しては、何かしらのインセンティブを付与するような支援等も検討が必要と考える。	リスクコミュニケーションを進める際は計画規模を超える想定外の降雨についての説明も合わせてするよう努めます。 また、西川流域水害対策協議会構成員で連携し、農家や地域住民の方々に流域治水の取組に参加・協力いただけるように取り組んでまいります。 さらに、民間事業者や地域の方々に流域治水に積極的に取り組んでいただけるよう、有効な支援方策について全国事例も参考にしつつ検討を進めてまいります。
宮川 智子 様 (都市計画)	・水害エリアまで含めた立地適正化計画とするかは、何にプライオリティをおくかによるが、居住しているエリアと水害リスクは切り離せないため、御坊市域において特にプライオリティが高いと考える。 ・防災指針を含む立地適正化計画は、各自治体で策定していくべきである。また、策定時には、流域水害対策計画との整合性を図るため積極的に意見交換を実施すべきである。	各自治体において立地適正化計画を策定する際は、流域水害対策計画との整合性を図るべく、担当者間で情報共有に努めてまいります。
井賀 尚哉 様 (農業水利)	・田んぼダムについて、圃場整備事業が完了した水田が効果的であると考えます。 ・ため池の治水利用(低水位管理)について、貯水量が低下することから、農業従事者の理解を得ることが重要である。	田んぼダムや、ため池の治水利用については、第一に営農優先での取組と考えており、取組の趣旨についてご理解とご協力が得られるよう、西川流域水害対策協議会構成員で連携しながら丁寧な説明に努めてまいります。